

牛肉中のオレイン酸含有率を取り入れた産肉能力育種価手法の検討

畜産研究部

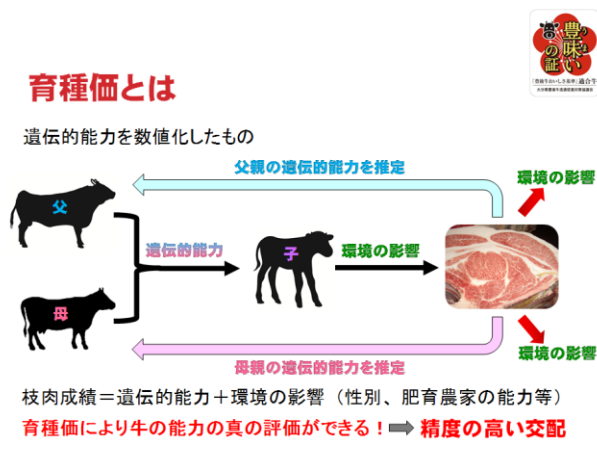
1. 研究の背景

大分県では「おおいた豊後牛」のブランド戦略としてオレイン酸に着目。オレイン酸含有率5%以上のものに「豊味(うまい)の証」を表示して差別化を図っている。今後、「豊味の証」を売り込んでいく上で、オレイン酸含有率の高い牛肉の生産量の増加が当面の課題となっている。そこで、県内でと畜された牛についてオレイン酸含有率の育種価評価を実施し、これからの豊後牛改良に活用出来るか検討した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

オレイン酸含有率の遺伝的能力を育種価として明確化。

- ・県内でと畜された牛のオレイン酸含有率データ（6,422頭）を利用して育種価評価を実施



育種価評価

2011年1月～2014年3月までに収集されたオレイン酸含有率データのうち、6,422頭分のデータを用いた

基本統計量

	平均	標準偏差	最小値	最大値
枝肉重量	457.1	52.8	293.8	621.7
ロース芯面積	53.8	7.6	30	77
バラ厚	74.0	7.9	49	100
皮下脂肪厚	29.6	9.7	6	72
BMSNo.	5.23	1.8	2	12
オレイン酸含有率	51.0	4.8	35.8	65.5
肥育期間	595.2	48.3	383	817
出荷日齢	883.2	47.7	651	1109

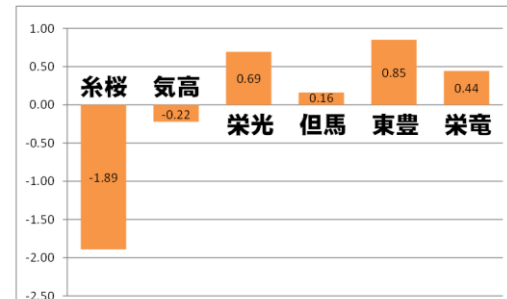
- ・種雄牛416頭、繁殖雌牛13,804頭の育種価データを算出

オレイン酸育種価ベスト10

順位	名号	系統	育種価
1	福栄 (事業団)	但馬	5.83
2	福美美	但馬	4.92
3	光照福	但馬	4.20
4	金忠平	栄光	4.08
5	菊照土井	但馬	3.93
6	松鶴	東豊	3.27
7	北平安	但馬	3.23
8	谷照 (鹿児島)	但馬	3.12
9	北湖2	但馬	3.08
10	初藤	但馬	3.02

系統による育種価分析

種雄牛の系統毎に育種価の平均値を比較した



- ・高能力種雄牛（繁殖雌牛）の把握、能力の高い系統などが明らかとなった。

3. 期待される効果

- ・オレイン酸含有率の遺伝的能力の高い種雄牛の造成
- ・オレイン酸含有率をターゲットにした計画交配の実施
→オレイン酸含有率の高い牛肉の生産量の増加

4. 担当機関連絡先

畜産研究部 肉用牛改良肥育チーム

TEL: 0974-76-1217

住所: 竹田市久住町大字久住3989-1